

宇摩郡関川村 出身の石水家

北海道土産の定番

「白い恋人」の会社を創業



白い恋人

石屋製菓 株式会社

資本金 3000 万円
売上高 145 億 2400 万円
従業員数 763 名

石屋製菓・石屋商事 / 2023年4月期

今月号は、看板商品「白い恋人」のみならず、お菓子のテーマパーク「白い恋人パーク」の運営やJリーグ「北海道コンサドーレ札幌」のメインスポンサーなど、地元にご貢献し、土居町関川にルーツを持つ石水創代表取締役社長から頂いたコメントをご紹介します。

当時、宇摩郡（四国中央市）からの移住者は、愛媛県内の半数近くを占め、北海道深川市には「宇摩」の地名が今でも残るほど縁のある土地です。

この北海道を代表する有名お菓子ブランドは、127年前の明治29年、宇摩郡関川村の一人の青年が屯田兵に応募し、北海道に移住したところから始まります。

北海道札幌市のお菓子メーカー・石屋製菓(株)が昭和51年に発売した『白い恋人』。40年以上も愛され続けるこの商品は、年間2億枚の販売を記録し、日本の誰もが一度は口にしたことがあるのではないのでしょうか。

石水家と石屋製菓(株)の系譜

100年先も、北海道に愛される会社へ

- 明治 29 年 ● 関川村の青年、石水七之助さんが屯田兵に応募。北海道に移住。
- 明治 32 年 ● 七之助さんの弟、石水八郎さん一家が兄を頼り、北海道に移住。
- 八郎さんの息子、石水亀一さんが自家製のあめ屋を始める
- 大正 6 年 ● 亀一さんの三男として、後の石屋製菓(株)の創業者である石水幸安さんが生まれる
- 昭和 22 年 ● 亀一さん・幸安さん親子が札幌で政府委託のどんぶり加工業を始める。翌年にドロップ製造に着手し、駄菓子メーカーとなる
- 昭和 32 年 ● 生菓子の製造を開始
- 昭和 34 年 ● 幸安さんが創業者となり、資本金 100 万円、従業員 10 人の石屋製菓(株)を設立
- 昭和 42 年 ● 高度経済成長期に入り、洋菓子が好まれ、高級菓子の製造に転換
- 昭和 51 年 ● 白い恋人の製造・販売を開始。全日空の機内食にも採用され、爆発的人気を得る
- 昭和 55 年 ● 幸安さんの長男・石水勲さんが代表取締役社長に就任（令和 3 年ご逝去）
- 平成 25 年 ● 勲さんの長男・石水創さんが代表取締役社長に就任

120年越しのご挨拶

私の4代前の高祖父である石水八郎が宇摩郡関川村から北海道に移住して120年が過ぎました。

先代から、北海道では多くの苦勞・苦難があったと幼い頃から聞いたことがありますが、ご先祖のご苦勞のお陰で、ルーツのある四国中央市の皆さまに、今こうして、ご挨拶することができ、高祖父も喜んでいると思います。

私たちは、今もルーツを大切にしています。

四国中央市の皆さまが今年も良い1年でありますように、遠く北海道から祈念申し上げます。



石屋製菓(株) 代表取締役社長

石水 創さん (41)

1982年、札幌市生まれ。
2004年に東洋大学法学部経営法学科を卒業後、石屋製菓(株)に入社。
1年間イギリス、スイスへ留学し、語学・製菓技術を学ぶ。2013年に小樽商科大学大学院修了。同年8月、石屋製菓(株)、石屋商事(株)代表取締役社長に就任。
理念は「しあわせをつくるお菓子」。